

# N K H

## 長岡市立科学博物館報

No. 109 2025



# N K H

109号

2025年3月

## 目次

令和6年度企画展・特別展 .....	1
令和6年度熱中!感動!夢づくり教育推進事業 実施報告 .....	5
児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」「自然科学写真展」...	8
ネイチャーセミナー .....	9
長岡れきしまち歩き .....	10
令和6年度事業報告 .....	11

### 表紙写真

#### 企画展「考古学者・小林達雄コレクション展」 ギャラリートークのひとつコマ

11月30日(土)、新潟県立歴史博物館主任研究員で小林達雄氏の教え子のひとりである宮尾亨氏を講師に迎え、ギャラリートークを開催しました。宮尾氏は國學院大學で小林氏の助手を務められていたこともあり、今回展示しているコレクション資料を小林氏が収集する場面にも、しばしば立ち会われたことがあるそうです。前半の講義では、小林氏やコレクションにまつわる秘蔵エピソードをユーモアを交えてお話いただき、その後展示室に会場を移し、展示資料について解説をいただきました。宮尾氏の語る小林達雄像に受講生は深くうなずいたり、時には笑いも起きたりと、場内は終始和やかな雰囲気に含まれ、考古学者の知の世界を堪能しました。

(文化財研究室 加藤由美子、考古研究室 小熊博史)

表紙デザイン：本間正三

## 解説ノート (66)

### 「トウネン *Calidris ruficollis*」



ユーラシア大陸の北極圏で繁殖する小型のシギで、旅鳥として春と秋に日本を通過します。主な飛来環境は砂浜、干潟、河口、水田等ですが、全国的に内陸部での飛来数は少なくなってきました。長岡市周辺でも内陸部よりも海岸部に多く飛来しているようで、特に晩夏から秋にかけて、大河津分水路河口周辺の砂浜でよく観察されます。ただし、上越・下越地域に比べると、飛来数は少ない傾向にあります。

波打ち際の濡れた砂に嘴をつっこみ、ゴカイやヨコエビ類、貝類等を採食します。そのため、波の動きに合わせ

て、砂浜を行ったり来たりする姿を頻繁に見かけます。また、バクテリアや藻類などによって作られるバイオフィームも食べていることが分かっている他、種子の採食も確認されており、比較的、食性幅が広いシギです。

成鳥の夏羽は喉や頭部から背中にかけて赤褐色になりますが、冬羽は灰褐色です。幼鳥は成鳥の冬羽のような羽色ですが、成鳥よりも頭部や背面が淡い褐色味を帯びます。

本種を含めシギ・チドリも多くは、飛来数の継続的な減少が指摘されています。

(動物研究室 鳥居憲親)

## 令和6年度 企画展・特別展

### 「植物×鳥×ケモノーなぜ集める？ どう守る？ー」

#### 展示概要

科学博物館企画展示室で5月1～7月7日まで開催し、期間中の入館者数は4,140人でした。本展示は「博物館が生物標本を集め続ける理由と直面している課題」をテーマに、植物・鳥類・哺乳類の3分野に焦点を当てて、解説しました。また、新潟県内の各標本保管施設や担当者が生物標本を未来に届けるためにどんな活動をしているのか、どんな問題に直面しているのかも併せて紹介しました。

展示にあたっては、産官学民それぞれの立場からの協力も得たおかげで、当館の自然系の企画展としては、過去最大数の機関団体に支援をいただき開催しました。展示を見た来場者からは、「博物館の裏側を知れたようで面白い」、「生物標本を未来に伝える大切さがわかった」等の感想に加え、「博物館のために何か私たちにできることはありませんか?」、「博物館の標本ボランティアにはどうやればなれますか?」といった嬉しい声も多数いただきました。

県内外を問わず多くの博物館関係者にもご来場いただいた他、展示内容の一部を大学や専門学校の授業にも取り上げていただきました。加えて、会期中は長岡市立中央図書館とコラボし、図書館内では「生物図鑑」や「標本の本」、そして博物館のハンズ・オン標本を集めた特設コーナー「生きもの×標本×図鑑」を同時開催しました。また、生物図鑑の読み方をテーマにした親子イベントも協同開催しました。両館にとって初の試みでしたが、中央図書館の生物図鑑の貸出し促進につなげることができました。

#### 主な展示資料

##### ・植物、鳥類、哺乳類の標本

腊葉標本、タネ標本、剥製標本、骨格標本、毛皮標本、卵標本、翼標本等を展示し、収蔵や保管の面から見た各標本の特性を互いに比較させながら解説しました。

##### ・研究に利用された標本

大学や外部研究機関の研究に実際に利用された当館の収蔵標本とその研究内容を展示し、標本から様々な新知見が得られることと標本が秘める可能性について紹介しました。

##### ・標本士って何？ー博物館を支える標本士たちの活動ー

自然史博物館を陰から支えてくれている「標本士」たち。その活動の様子（標本作製の様子）を、写真パネルで展示しながら、その活躍の場を創出していくことが日本の自然史博物館にとって大きな課題であることを紹介しました。

#### 関連イベント

##### ・ギャラリートーク

担当学芸員による展示解説を行いました。

##### ・発見の部屋ミュージアム・ラボ「生物標本をみてみよう」

生物標本に親しんでもらうために、植物・鳥類・哺乳類標本を用いた子ども向けの体験講座を開催しました。

##### ・図書館コラボ展示「生きもの×標本×図鑑」

展示期間中に中央図書館とのコラボ企画として、生物図鑑、標本の本、博物館のハンズ・オン標本を集めた特設コーナーを設置し、動植物の生態写真と一緒に展示しました。

##### ・生きものガイド「意外と知らない？図鑑のミカタ」

生物図鑑の読み方をテーマに、夏休みシーズンに中央図書館で親子イベントを実施しました。イベントの後は自分に合った図鑑を見つけるポイントも紹介しました。

#### 展示協力

新潟大学旭町学術資料展示館、新潟大学植物標本庫、長岡技術科学大学物質生物系野生動物管理工学研究室、新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里、新潟県立植物園、十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ、新潟市立総合教育センター植物資料室、ほねとはね（剥製標本作製所）、長岡市立中央図書館

#### 後援先

新潟県教育委員会、積雪地域植物研究所、新潟県植物同好じねんじょ会、新潟県野鳥愛護会、長岡野鳥の会、新潟県生態研究会、NPO法人新潟ワイルドライフリサーチ、公益財団法人こしじ水と緑の会、新潟日報社、FMながおか 80.7



研究に利用された標本たち

（展示担当：動物研究室 鳥居憲親）  
植物研究室 櫻井幸枝）

## 「第12回長岡藩主牧野家の至宝展—11代忠恭と戊辰・長岡藩兵の軌跡—」

### 展示概要

科学博物館展示室で7月27日～9月1日まで開催し、期間中の入館者数は3,704人でした。

「長岡藩主牧野家の至宝展」は、歴代藩主の事績をテーマに、それぞれの人物像やその時代の長岡の歴史・文化を紹介してきました。12回目となる本展では、戊辰戦争に従軍した長岡藩兵の子孫より寄贈を受けた11代藩主・牧野忠恭と伝わる肖像画をはじめ、書画や古文書などから北越戊辰戦争前後の忠恭と藩兵たちのすがたを紹介しました。

展示前半は、忠恭の肖像画や写真、自らが描いた書画などを通じてその人物像を探るものとし、後半は、藩士をはじめ家臣たちから見た戊辰戦争を紹介。長岡城の戦いから会津、米沢、そして仙台へと戦局が移るなか、忠恭と藩兵らがどのように行動し戦後を迎えるのかを追う構成としました。

本展では、これまで長岡で取り上げられることが少なかった戊辰戦争時の藩主の動きを展示資料や年表・地図で紹介し、他藩領での長岡藩関係資料の所在確認・調査など今後の課題や展望を示しました。今回初公開となった伝牧野忠恭肖像画は、制作者や来歴など不明な箇所も多くあり、これからの研究が期待されます。

### 主な展示資料

#### ・「伝牧野忠恭肖像画」

武家の礼装である狩衣のすがたをした牧野忠恭とされる肖像画です。長岡藩領栃尾組土ヶ谷村出身の藩兵であった鈴木甚左衛門が戊辰戦争のなか守り伝えたと言われます。忠恭は明治期に撮影された肖像写真が残っており、展示では写真と見比べて鑑賞する入館者も多くいらっしゃいました。



#### ・牧野忠恭書「術有巧拙」

雪堂の号を用いていることから、制作年代は忠恭が藩主を隠居した慶応3年(1867)以降と考えられます。藩主在任時は、長岡で藩士たちとともに槍や剣術を習い、自らの術=武芸を磨きました。(牧野忠昌氏蔵)

#### ・「扈從日記」 柳野嘉兵衛

戊辰戦争中、忠恭が会津に滞在した際に側近として仕えた柳野嘉兵衛の記録です。資料には忠恭の行動だけでなく、陣中見舞いの様子など戦時における主君と藩兵たちのやり取りが克明に記されています。(長岡市立中央図書館蔵)

### 関連イベント

8月9日(金)にギャラリートークを開催し、長岡藩主牧野家17代当主である牧野忠昌名誉館長が肖像画を衣紋道の観点から解説しました。同じく7月27日(土)、8月24日(土)は担当学芸員による展示解説を行い、延べ58名が参加しました。

8月15日(木)には市内の戊辰戦争関連施設を巡る親子向け事業「バスでめぐろう！—長岡の戊辰戦争—」を実施。小中学生3名、大人3名が参加し、八丁沖古戦場パーク、北越戊辰戦争伝承館を見学しました。

また、長岡藩主牧野家史料館にて特別展示「涼—牧野家ゆかりの扇コレクション—」を同時開催し、長岡花火や金魚など夏らしい涼やかな作品20点を公開しました。

### 展示協力・後援先等

開催にあたり、牧野忠昌名誉館長をはじめ貴重な資料をご提供いただきました関係者の皆さまに、記して感謝申し上げます。



展示風景



「バスでめぐろう！—長岡の戊辰戦争—」見学の様子

(展示担当：歴史研究室 田中洋史・武藤真由)

## 「考古学者・小林達雄コレクション展」

### 展示概要

科学博物館企画展示室で10月5日～12月27日まで開催し、期間中の入館者数は6,129人でした。

長岡市では、長岡市出身で國學院大學名誉教授の考古学者・小林達雄氏が収集した貴重な資料（コレクション）の寄贈を受け、現在も整理作業を継続しています。これらの資料は小林氏の自宅の書庫に保管されていた考古学・歴史学・民俗学・文化財等に関する図書、定期刊行物、自治体史及び関連資料、写真フィルム、図面、ミュージアムグッズ、和鏡、墨壺など、その数は段ボールで約1,500箱、10万点を超えます。資料群全体が考古学史上で高い価値をもつだけでなく、小林氏自身が培ってこられた研究者としての思考の体系を表していると考えられます。

本展では、小林達雄氏の考古学者としての足跡をたどりながら、本人への取材やインタビューの成果を交えて、膨大な文献資料や多彩なコレクションなどの一部を紹介しました。展示資料数は約800点です。

展示室のレイアウトは氏の書齋や書庫をイメージし、あたかも入館者が小林氏の書齋でコレクションを眺めているような展示を設えました。解説パネルは小林氏のインタビューから抜粋した言葉で構成し、コレクションに対する氏の想いやこだわりが入館者に直に伝わるよう工夫しました。あわせて、室内では常時小林氏のインタビューの音声を流しました。コレクションや知の探究の喜びを語る小林氏の言葉にはこの上ない説得力があり、小林氏の語りにはしばし耳を傾ける入館者も多く、大変好評をいただきました。

展示室に設置したメッセージカードには入館者から多くの感想が寄せられ、小林氏の往年のファンはもちろん、

本展で初めて小林氏を知ったという方からもコレクションや氏の研究姿勢に共感する言葉が聞かれました。

### 主な展示資料

#### ・小林達雄自筆の資料（書き込み、製作等を含む）

長年愛用している京大式カードや、パソコン導入以前に一時的に採用した遺物のパンチカードは、小林氏の情報管理の方法をうかがい知ることができる資料です。

#### ・北西海岸インディアンとプエブロ族の本など

アメリカ北西海岸及び南西部の諸民族に関する書籍は縄文文化との比較研究のため収集されたものです。

#### ・ストーンヘンジの本とミュージアムグッズ

イギリスの世界遺産ストーンヘンジに関するミュージアムグッズは、小林氏が90年代以降精力的に取り組んでいる国内におけるミュージアムグッズ制作の手本になりました。

### 関連イベント

11月30日(土)、に新潟県立歴史博物館主任研究員の宮尾亨氏を講師に迎え、ギャラリートークを開催しました（詳細は表紙写真及び表紙裏のとおり）。参加者は44人でした。

10月19日(土)、12月14日(土)の両日は、学芸員による展示解説を行い、延べ26名の参加がありました。

### 展示協力・後援先等

開催にあたり、小林達雄氏並びに美津子夫人に多大なる御協力をいただきました。また、前出の宮尾亨氏からも多くのご教授をいただきました。記して感謝申し上げます。



展示風景



展示風景

（展示担当：文化財研究室 加藤由美子）  
考古研究室 小熊博史）

## 「長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展」

### 展示概要

科学博物館企画展示室で令和7年2月14日～3月9日まで開催し、期間中の入館者数は2,581人でした。

長岡藩主であった牧野家にゆかりのあるひな人形やお道具類を展示する本展は、平成26年より毎年開催され、今年11回目となります。今年は「お印」をテーマとし、長岡藩主牧野家第16代牧野忠永の妻・元子（はつこ）氏旧蔵の品を中心に展示しました。「お印」とは、誰のものかを示すマークのことで、公家や武家などで用いられてきました。牧野家では、ひな道具の共箱に印が描かれています。元子氏は「扇印」を用い、嫁がれる際に牧野家へ持参しました。

元子氏は大正7年（1918）の生まれで、京都の高倉家の出身です。高倉家は古くから宮中の装束に通じる家です。おひなさまも有職故実にならない、公家装束の東帯・十二単を着装した有職雛で、高倉流に基づき実際のかたちに忠実に再現されていることが特徴です。

本展を通じて古くから人びとに親しまれてきた節句の文化に触れ、長岡の歴史の一端を感じてもらう機会となることを目指しました。

### 主な展示資料

#### ・扇印 元子氏旧蔵のおひなさま

元子氏旧蔵のおひなさまは、有職雛やお道具、御所人形などで構成されます。ひと揃えとして展示するのは初の試みです。



おひなさまの箱にある「扇印」

#### ・松葉印 唐草時絵御掛盤本膳・二之膳、御高鉢・湯桶

おひなさまで飾る小さな道具類は、嫁入り道具を表しています。今回は牧野家の婚礼調度の内、食事に関わる什器を併せて展示しました。実際の大きさや造りなど、ミニチュアと見比べられるよう工夫しました。

### ・立雛

立雛はひな人形の初期のかたちの一つとされ、当初は自身のけがれを人形に移し、川などで流したといわれます。子どもの成長や無病息災を祈るという行為は、かたちを変えながら現在まで続いています。

### 関連イベント

#### ・長岡藩主牧野家史料館 ミニ展示

連動企画として、さいわいプラザ3階の牧野家史料館で牧野家ゆかりのひな道具や、木村武山が描いた色紙「菱餅」などを展示しました。

#### ・ギャラリートーク

3月1日、牧野忠昌名誉館長と担当学芸員による展示解説を行いました。42人が参加し、ここだけしか聞けない展示のポイントや、京都牧野邸でのおひなさまの様子を紹介しました。

### 展示協力・後援先等

本展は、越後長岡ひなものがたり実行委員会（事務局：長岡市商店街連合会）主催の第18回「越後長岡ひなものがたり」（令和7年2月14日～3月4日）に参加しました。

また、牧野忠昌名誉館長より資料をお借りし、展示構成・設営など多大なご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。



企画展示室



長岡藩主牧野家史料館でのミニ展示

（展示担当：歴史研究室 武藤真由）

# 令和6年度熱中！感動！夢づくり教育推進事業実施報告

長岡市では、子供たち一人一人の個性や能力を伸ばし、学ぶ意欲を引き出すことを目的に「熱中！感動！夢づくり教育推進事業」を実施しています。科学博物館では令和6年度4事業を実施しました。また、寺泊水族博

物館では「移動水族博物館」と「バスですいぞくかんどキドキ体験」、馬高縄文館では「縄文出前授業・体験学習」を実施しました。

## 1 博物館の先生がやってきた

### 事業概要

当館の学芸員がそれぞれが得意とするテーマを中心にメニューを構成し、依頼のあった保育園・幼稚園や学校に訪れ、学習支援をする事業です。

### 実施プログラムと参加者数

メニュー名	利用実績
学校で楽しむ草木あそび	3校4件114人
さぐってみよう学校の周りの歴史	1校1件7人
しらべてみよう長岡の三傑	2校2件80人
さわってみよう昔の道具	2校2件134人
すなのじっけん	5園5件104人
こんちゅうをさがそう	11園13件395人
オーダーメイド	3校3園6件329人
合計19園11校33件1,163人	

（科学博物館 学芸係）

## 2 バスで行く科博見学・体験学習

### 事業概要

授業に科学博物館の見学利用を取り入れてもらえるように、長岡市内の小・中学校特別総合支援学校向けに、学校と博物館の間を市のバスで送迎します。また、来館時に学芸員が展示解説を行います。

### 実施プログラムと参加者数

メニュー名	利用実績
長岡の生きもの	4校4件92人
長岡の歴史	2校2件13人
米づくりの道具	2校2件23人
雪とくらしの道具	3校3件172人
合計11校11件300人	

（科学博物館 学芸係）

## 3 発見の部屋－ミュージアム・ラボ－

### 事業概要

博物館が所蔵する実物資料を用いて、学芸員と一緒にさまざまな「ふしぎ」を探求する体験型セミナーです。活動を通じて、子どもたちの発見を促し、知的好奇心を育むことを目標にしています。

今年度は、小学生以下の親子を対象に、企画展「植物×鳥×ケモノなぜ集める？どう守る？」（会期：5/1－7/7）の関連イベントとして、生物標本にふれて、標本に親しんでもらう体験イベントを開催しました。

### 会場と参加者数

会場	開催日	参加人数 (定員)
さいわいプラザ (市民ホール)	6月22日	189人

### 実施内容

植物と鳥のブースを用意し、植物のブースには「草木のタネ標本」、「草木の実生標本」の2つを、鳥のブースには「鳥の剥製標本」、「翼標本」の2つを体験するプログラムを準備し、それぞれのハンズオン標本を見たり、触れたりできる自由参加型の体験講座としました。

参加者の興味にあわせて各標本のプログラムを自由に好きなペースで体験できるようにしたことから、ブースの間を何度も行き来して楽しむ親子も多く見られました。植物のブースでは「タネだけを取り出して見る機会はなかなかないので興味深い、こうして並べてみると面白い」「タンポポの綿毛に触ったら、見た目とはイメージが違った」、鳥のブースでは「初めてペンギンの羽に触った」、「カワセミを手にとって観察できるなんてスゴイ！」といった感想が聞かれました。

また、企画展を見学した参加者から、「時間と手間をかけて作った剥製に触らせてもらえるのはどうですか？」という質問もあり、標本への興味を深めるだけでなく、標本の意義や役割なども知ってもらう機会となったようです。

（植物研究室 櫻井幸枝）  
（動物研究室 鳥居憲親）

## 4 縄文体験教室

### 事業概要

本教室は、史跡馬高・三十稲場遺跡での縄文体験を通じて、縄文人のくらしと技術を楽しみながら、縄文文化への関心や学びを深めることを目的としています。

馬高縄文館の展示や遺跡を見学後、弓矢体験、まが玉や縄文土器づくり、縄文の編み物体験などを実施しました。

### 実施内容

本教室は、小学校5・6年生を対象とした①②体験教室、4年生向けの③入門教室に分かれています。

各教室ともオリエンテーションや展示解説、植物観察も含めた遺跡見学を体験前に行っています。

体験教室は土器・石器・植物のプログラムを組み合わせ構成され、参加者は2つのグループに分かれて半日交代で体験しました。また、入門教室は同一のプログラムを午前回・午後回で行いました。

#### ①縄文体験教室 (第1日目) 7月27日(土)

石器	黒曜石の矢じりづくり、まが玉づくり、弓矢の体験
土器	縄文土器づくり

#### ②縄文体験教室 (第2日目) 7月28日(日)

植物	アングイン編み体験、縄文着用体験
土器	縄文土器づくり

#### ③縄文入門教室 8月10日(土) 午前回・午後回

共通	まが玉づくり、文様キーホルダーづくり、弓矢の体験
----	--------------------------

### 参加者数

本年度は体験教室各日20人、入門教室各回10人で募集を行い、体験教室はのべ55人(16校)、入門教室はのべ57人(13校)の応募があり、抽選を行いました。

参加者決定後のキャンセル・欠席を含め、実際の参加人数は以下のとおりです。

①7/27 19人	②7/28 16人	③8/10 16人(4年)
5年生 9人 6年生 10人	5年生 10人 6年生 6人	午前回 8名 午後回 8名

参加者は、体験を通して初めて会った他校生とも交流を深め、協力しながら楽しく充実した時間を過ごしました。

最後に、本教室にご理解、ご協力いただきました保護者、学校関係者、体験講師の方々へ厚く御礼申し上げます。

(馬高縄文館 野水宏美)

## 5 縄文出前授業・体験学習

### 事業概要

長岡の縄文文化への興味・関心を育てるため、馬高縄文館の学芸員・専門員等が市内学校へ出向き、実物資料を用いた授業や縄文に関する体験学習を実施しました。

### 実施内容

授業ではできるかぎり各学校の地域の遺跡を紹介し、体験学習でも教員と相談しながらオーダーメイドのプログラムを作成する場合もありました。また、新型コロナウイルス感染症の影響で休止していた火おこし体験をプログラムに加え、複数の学校で実施しました。

募集対象は基本的に小学6年生から中学生までとしましたが、クラブ活動等で小学3～5年生の参加もありました。

今年度は昨年度よりもやや遅い実施開始となり6月、7月に利用が集中しました。令和6年度全体では、授業・体験学習を合わせ、のべ24校33件865人と昨年度より若干減少しました。その一方で、例年に比べ多くの学校団体が馬高縄文館の見学・縄文体験に来館されました。

#### ①縄文出前授業

No.	タイトル	利用実績
1	しらべてみよう ～火焰土器と長岡の縄文時代	3校4件 101人
2	くらべてみよう ～縄文時代と弥生時代	1校1件 15人
	オーダーメイド授業	1校1件 15人
合計 5校 6件		131人

#### ②縄文出前体験学習

No.	タイトル	利用実績
1	縄文土器をつくってみよう	4校10件 341人
2	縄文時代のまが玉をつくってみよう	4校5件 148人
3	弓矢をつかってみよう	5校6件 132人
4	黒曜石をつかってみよう	1校1件 20人
5	さわってみよう縄文時代の道具	1校1件 17人
6	縄文時代の火おこしチャレンジ	3校3件 61人
	オーダーメイド授業	1校1件 15人
合計 19校 27件		734人

(馬高縄文館 早見歩美)

## 6 親子わくわく魚ランド

### 事業概要

水族博物館のバックヤードを見学しながら、飼育生物の餌作り、給餌を体験することによって、水族博物館のしくみや水生生物に対する理解を深め、子どもたちの興味を呼び起こすことを目的に行っている事業です。

### 実施内容

月 日	参加人数		
	大人	こども	計
7月30日(火)	4人	6人	10人
8月6日(火)	4人	5人	9人
8月13日(火)	3人	9人	12人
8月20日(火)	4人	5人	9人
9月8日(日)	4人	3人	7人
9月22日(日)	3人	3人	6人
9月29日(日)	4人	3人	7人
10月6日(日)	3人	5人	8人
10月13日(日)	5人	4人	9人
計	34人	43人	77人

#### ①バックヤード説明

バックヤードを周りながら、濾過設備、ヒーター及びクーラーなど「生物を飼育する環境を作る」ための機械設備について解説を行いました。普段は見ることが出来ない水族館の裏側に、参加者たちも感心していたようです。

#### ②餌作り

参加者の皆さんに餌用の魚などを実際に切ってもらいます。普段、包丁を持つ機会の少ないであろう子どもたちも、飼育員の指導や保護者の手助けによってなんとか餌を切り分けていました。

#### ③給餌

最後に、切り分けた餌をミズダコやタカアシガニ、ピラルク、ウミガメなどに与えます。自分たちが切った餌を食べる姿に多くの子どもたちが見入っていました。

他のイベント実施日との兼ね合いもあって、昨年度より実施数は少なくなりましたが、参加した子どもたちからは「初めて魚を捌いた。もっとやってみたい」、保護者からは「子どもが抵抗なく餌に触れている姿を見て感心した」といった感想をいただきました。参加者には貴重な体験を届けられたのではないかと思います。

（寺泊水族博物館 蝶名林基）  
田中裕也

## 7 移動水族博物館

### 事業概要

水族博物館で飼育している生物と飼育設備を小学校へ貸し出し、児童が実際に飼育体験する事業です。自分たちで水槽の清掃・水換え、水温の管理、餌やり、観察をする体験を通して、生物を慈しむ心や生物に対する接し方、観察力の育成を図ることを目的としています。

### 日程と参加児童数

学校名	期間	参加児童数
宮本小学校	6月25日～7月22日	46人
豊田小学校	9月4日～10月10日	20人

### 実施内容

#### ①準備作業

横 90cm、縦 45cm の水槽 1 本を用意し、照明器具などの設備の搬入、設置を児童と一緒に行いました。

その後、飼育する生物の特徴、適する水温の状態や水槽の掃除、水の換え方など「水生生物を飼育するために必要なこと」についての説明を行います。人工海水の作り方については実演も行いました。

#### ②生物の搬入

魚たちの搬入、餌の種類及び与え方についての説明を行い、飼育方法についての質問に回答します。

設置した水槽の清掃、餌やり、水換え、水温測定などの作業は参加児童たちで分担して行うことになっており、ここから児童たちによる水生生物の飼育が始まります。

#### ③講話

期間内に一度、生き物の命の大切さや飼育の心得にちなんだ講話を行います。後期は学年が分かれていたため、授業としてではなく、お昼休みに集まっていただいていた行いました。

#### ④撤収

水槽の周りは飾りつけが行われており、大切に世話をしていた様子がうかがえます。児童たちが生物の飼育を通して多くのことを学ぶ様子が見てとれました。

児童たちからは「砂の掃除が難しかった」「餌が気持ち悪かったけど、沢山食べてくれて嬉しかった」「もっと飼育していたかった」といった感想をいただきました。今後も学校側の意見や要望を踏まえ、継続して実施していきたいと思ひます。

（寺泊水族博物館 蝶名林基）  
田中裕也

## 児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」「自然科学写真展」

### 事業概要

児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」「自然科学写真展」は、新潟県の児童・生徒が作った昆虫標本／岩石・化石標本／自然科学写真の各作品を集めた自然科学展示会です。標本作りや写真撮影を通して自然史学の基礎となる「自然を記録し、整理し、科学的に考察する力」の育成を目指しています。

作品は各分野の専門の審査員が個別に評価・コメントし、技術向上や研究のヒントを提案しています。優れた作品には金・銀・努力賞の各賞が、展示会の中で際立って優れた作品には長岡市立科学博物館長賞が贈呈されま

す。また、初めて出品した出品者の作品から特に意欲の高い作品に奨励賞が贈呈されます。

### 令和6年度出品状況

	作品数	出品者数		
		小	中	高
昆虫標本展	38	43	2	1
岩石・化石標本展	5	4	0	1
自然科学写真展	6	5	1	0
計	49	52	3	2

### 入賞作品一覧（銀賞以上および奨励賞／出品者名は省略）

昆虫標本展	柏崎市立田尻小学校	6年	柏崎と柏崎周辺のチョウ Final season 私の4年間のチョウ図鑑	館長賞
	魚沼市立広神東小学校	3年	魚沼のトンボ 3年目 ～魚沼市地域のトンボ～	金賞
	柏崎市立田尻小学校	4年	柏崎のトンボ シーズン4	金賞
	長岡市立大島小学校	6年	カメムシ標本図鑑 2024	金賞
	新潟市立上所小学校	3年	昆虫の進化と分類	金賞
	新発田市立外ヶ輪小学校	1年	私の好きなチョウとガ	銀賞
	十日町市立松之山小学校	5年	十日町市のとんぼ	銀賞
	新潟市立新津第三小学校 新潟市立新津第一中学校	6年 3年	昆虫たちの居場所はどこ？	銀賞
	南魚沼市立中之島小学校	4年	南魚沼市の水生昆虫	銀賞
	南魚沼市立六日町小学校	4年	春夏のとおきの生き物たち	銀賞
	南魚沼市立広神東小学校	1年	はじめてのこん虫ひょう本づくり 甲虫とトンボとチョウ	奨励賞
岩石・化石標本展	上越教育大学附属小学校	6年	Kokoro's Rock'n'geography in the world ～岩石と世界の地理～	金賞
	上越教育大学附属小学校	6年	やってきた糸川川の宝石たち	銀賞
	上越教育大学附属小学校	5年	岩石の特徴から地質を学ぶ	銀賞
	燕東小学校	5年	化石を探しに行こう!	奨励賞
自然科学写真展	長岡市立大島小学校	6年	ダンゴムシを捕食するヨコヅナサシガメ	金賞
	柏崎市立枇杷島小学校	4年	お花図鑑3	銀賞
	新潟市立浜松中学校	4年	夕日に照らされる阿賀野川	奨励賞

令和6年度は11月6日(水)から11月10日(日)にかけてさいわいプラザ大会議室で作品展示会を開催し、延べ351人が来場しました。最終日には各分野の審査員や学芸員から出品者と家族・教員を対象に「出品者向け講評会」を実施し、特筆すべき作品の紹介や次の作品作りに向けた総括的なアドバイスを行いました。また、夏休み期間には科学博物館展示室内で参考作品の展示を行いました。

今年度は昨年度と比較して、全体の出品数がやや減少する結果となりました。とくに岩石・化石標本展では大きく減少しています。その一方で昆虫標本展の新規の出品者数は増えており、今後の出品が期待されます。出品作品はいずれも質の高いものが多く、標本やレポートを作る上で必要な技術が身につけていることがうかがえま

した。

今回標本展に出品された方はみな、自らテーマを見つけ、現地に赴いてデータを採集し、図鑑などの資料を見ながら名前を調べ、大小さまざまな発見を得ながら作品を作り上げたものと思います。これは、大学や博物館などの機関で行われる研究のプロセスと同じです。インターネットで検索すれば欲しい情報を簡単に得ることができるかもしれませんが、自ら集めたデータと、それらを観察して得た気づきは、唯一無二で非常に価値のあるものといえます。標本展への出品を通じて、自分の足でデータを集め、それらをまとめる力を養い、将来の活動の糧にしてほしいと考えます。

今後もさらなる研鑽と発展に期待します。

（地学研究室 高橋啓太）

## ネイチャーセミナー

### 事業概要

「生きものを知るたび、“もっと知りたい”が見つかる」をキーメッセージに、生きものの生態や不思議を紹介する講座(生きものガイド)や講演会(ネイチャートーク)を開催しています。参加者の自然への関心と探究心を育むことを目的としており、特に「自然を観察し疑問を発見する力」の養育を目標にしています。

生きものガイドは本年度、千秋が原ふるさとの森公園の活性化を目指す市民団体「ジェラート雪鹿 Field Lovers」や長岡市立中央図書館とタイアップし、プログラムを実施しました。ふるさとの森公園では、都市公園を舞台に身近な自然を幅広い世代に楽しんでもらうイベントを開催しました。

また中央図書館とは、夏休みシーズンに、“生物図鑑をちょっと詳しく読めるようになる”をコンセプトに、学芸員と司書のコラボイベントとして初開催しました。

### 実施プログラムと参加者数

生きものガイド			
プログラム	形式	実施日	参加者数(定員)
意外と知らない? 図鑑のミカタ	屋内講座	7月7日(日)	30人(28人)
探検! ナイトパーク	野外観察会	7月20日(土)	35人(15組)
枝や羽根でペンをつくろう!	体験講座	7月27日(土)	22人(15組)
ハロー! アンダーグラウンド	屋内講座	9月28日(土)	25人(16組)
公園 DE サイエンスカフェ	屋内講座	10月25日(金)	13人(15人)
自然とあそぼう	体験講座	11月4日(祝・月)	396人
雪の下のどんぐりを見てみよう	屋内講座	2月22日(土)	4人(6組)
ネイチャートーク			
トークテーマ	講師	実施日	当日参加者数(定員)
森林植物と雪とのかわり	宇都宮大学教授 逢沢峰昭	8月17日(土)	30人(30人)
オンライン配信			視聴回数 211回
解説コウモリ! 夜空を飛ぶ哺乳類のふしぎ	-	10月13日(日)	講師急病のため中止
日本を彩る野生のサクラ(2024年2月23日開催)・オンライン配信			視聴回数 208回
合計 974人			

「意外と知らない? 図鑑のミカタ」は中央図書館と共催  
オンライン配信は、講演会終了後1ヶ月間の限定配信

### 生きものガイド

#### <意外と知らない? 図鑑のミカタ>

たくさんある生物図鑑。いざ目の前に並べられると、それぞれの違いは何か? どんなことが書かれているのか? 使いやすい図鑑はどれ? と、迷うことも多いはず。この講座では、図書館や博物館にあるいろいろな生物図鑑を使いながら、生物図鑑の読み方を解説しました。参加者は様々な図鑑を手にとって「初めて見たけどすごく面白い」、「この生きもの図鑑もあるんだ」と興味津々の様子でした。また、図鑑の読み方がわかったことで、子どもたちは図鑑で生きもの調べるのが前よりも楽しくなったようでした。講座終了後には「この図鑑は借りられますか?」と、そのまま図書館で図鑑を借りていく親子がたくさん見受けられました。

#### <探検! ナイトパーク>

夏休みシーズンに合わせ、日没後の公園で生きものを探して観察しました。当日は開始早々、薄暮の空にねぐらから出てきたばかりのコウモリがたくさん飛び回っていました。コウモリが出す超音波を聞くことができるバットディテクターという装置を利用して、コウモリが獲物を追いかけたり、障害物を避けたりする際に、超音波を発している様子をみんなで聞き取りました。参加者は、コウモリたちが練り広げる普段は聞こえない賑やかな飛行の様子を目と耳で楽しんでいました。

一方、視線を低くして草たちの様子を見てみると、昼間とは葉の姿勢を変えて「眠る」草たちがあちこちで見つかりました。参加者は、植物がはっきりと目に見える形で動いたことに驚き、どのように姿勢が変化したのかをじっくり観察していました。昼間とは異なる雰囲気のある公園を楽しく探検することができました。

### ネイチャートーク

雪が植物に与える影響をテーマにお話いただきました。雪の重さによって枝や幹の損傷がおこるマイナスのイメージは持ちやすいですが、保湿や保温による保護効果というプラスの面があることは、参加者には意外だったようです。また、積雪の多い地域では普通に生えている種類が、積雪の無い地域にはほとんど生えず別の種類に置き換わることも説明いただき、植物と雪のかかわりを改めて感じることができました。講演の終わりには、太平洋側の森林に現在広がっているシカの問題が紹介されました。そして、日本海側でも今後同じ問題が顕在化すると予測されているというお話もありました。

身近に生えている植物が積雪がなければ生えない種類かもしれない、いずれシカの影響で姿を消してしまうかもしれない、と、これまでとは違う視点で植物を見る機会になったのではないのでしょうか。



探検! ナイトパーク

(動物研究室 鳥居憲親)  
(植物研究室 櫻井幸枝)

## 長岡れきしまち歩き

### 事業概要

昔の長岡の様子を描いた絵画や地図を題材に、地域の歴史や民俗を学ぶ勉強会とまち歩きを開催しています。本事業は、座学だけではなく実際に外に出て、昔の資料と照らし合わせながらまちの様子を目にすることで、市民がより身近に長岡の歴史や文化を感じ、興味関心を持つことを目的としています。

「雪之図」とは、長岡藩のお抱え絵師・飯島文常が絵を描き、文人・木宮磐根が文を書いた全2巻の卷子です。江戸時代末期の長岡城下における雪中の様子を紹介しており、新潟県指定文化財に指定されています。

活動初年度となる今回は、勉強会は25名（9月21日）、まち歩きは28名（10月12日15名、10月13日13名）と多くの参加がありました。まち歩き当日は両日とも天候に恵まれ、散歩日和の良い日に開催となりました。



勉強会



まち歩き

### 勉強会

まち歩きをする前の事前学習として勉強会を実施しました。民俗分野では、「雪之図」に書かれた文章と絵の解説、歴史分野では、長岡藩の足軽の仕事記録した古文書から城内の除雪事情を解説する講座を行いました。また、講座だけではなく、絵図の登場人物が身に着けている雪靴や雪下駄などの民具に実際に触れることができるコーナーを設けたり、講座終了後には、科学博物館展示室にて積雪期民具の解説も行いました。参加者からは、「雪国の暮らしぶりや、市井の人びとの様子を知ることができて楽しかった」「江戸時代の資料であるが、どこか懐かしさも感じられて面白かった」という声が寄せられました。

### まち歩き

「雪之図」に描かれたスポットを巡るまち歩きを実施しました。当日は、各地点の解説とまち歩きルート（下記参照）が載った「雪之図マップ」を配布し、さいわいプラザを出発点として、千手、柳原、本町、表町、山田町を通り、休憩をはさみながら3時間市内をまわりました。途中、絵図に描かれた場所や、寺社、小路、雁木通りなどで足を止め、補助資料を用いながら説明を行いました。参加者は、熱心にメモを取りながらお互いに感想や思い出を話したり、自ら石造物の銘文や建物の造作に注目したりするなど、積極的に学ぶ様子が見られました。



まち歩きルート

（歴史研究室 武藤真由）  
（民俗研究室 加藤穂乃佳）

## 令和6年度事業報告

## 1 利用者数

月	科学博物館					長岡藩主牧野家史料館					入館者 月計	イベント 参加者		資料照会		利用者 数合計
	個人入館		団体入館		入館者 合計	個人入館		団体入館		入館者 合計		大人	子ども	大人	子ども	
	大人	子ども	大人	子ども		大人	子ども	大人	子ども							
4	864	379	37	12	1,292	282	28	12	0	322	1,614	179	21	69	6	1,889
5	1,233	379	0	106	1,718	308	28	0	0	336	2,054	152	130	79	8	2,423
6	1,281	492	54	63	1,890	262	50	33	0	345	2,235	291	328	75	11	2,940
7	1,357	595	65	46	2,063	325	40	64	0	429	2,492	258	377	80	29	3,236
8	2,166	871	12	77	3,126	436	74	12	13	535	3,661	173	44	60	29	3,967
9	1,440	484	77	129	2,130	279	45	32	46	402	2,532	79	160	56	11	2,838
10	2,069	529	46	229	2,873	224	33	20	49	326	3,199	789	677	64	13	4,742
11	1,582	590	16	247	2,435	478	110	0	27	615	3,050	543	728	78	15	4,414
12	1,017	442	12	12	1,483	199	63	0	0	262	1,745	106	196	48	6	2,101
1	795	363	13	0	1,171	173	21	0	0	194	1,365	24	59	44	2	1,494
2	1,442	426	0	0	1,868	464	43	0	0	507	2,375	18	197	31	1	2,622
3	1,806	561	44	129	2,540	682	56	26	0	764	3,304	91	3	60	1	3,459
累計	17,052	6,111	376	1,050	24,589	4,112	591	199	135	5,037	29,626	2,703	2,920	744	132	36,125

## 2 常設展示

エリア		展示内容
市民ホール		ヒドロダマリス属海牛親子生体復元模型、 長岡市地図サークル、文化財検索モニター
展示室	長岡のおいたち (考古・文化財・歴史)	発掘された長岡、旧石器・縄文・弥生・古墳・古代（飛鳥・奈良・平安）・ 中世（鎌倉・室町・安土桃山）、中世（戦国）・ 近世（江戸）・近現代、長岡の教育、その他（歴史年表）
	長岡の大地のおいたち（地学）	長岡が海だったころ、海牛のいた海、海から陸へ、地震地盤災害と地殻変動
	長岡のすがた - 自然と暮らし - (植物・動物・昆虫・民俗)	長岡の自然 - 山間部・平野部・海岸部 -、地域で生まれる生き物たちの変異、 山間部・平野部・長岡の日々の暮らし - 衣食住 -
	重要文化財・受贈資料	東北日本の積雪期用具附改良形用具、室谷洞窟遺跡出土品、長岡瞽女、 小瀬ヶ沢洞窟遺跡出土品、牧野恭次氏収集シダ植物標本、 村山 均貝類コレクション、南極の岩石、ユキヒョウ

## 3 特別展・企画展、関連イベント

タイトル	会期（開催日数）	入場者数
「長岡藩主牧野家ゆかりの端午の節句展」(牧野家史料館)	4月23日～5月29日（35日）	424人
企画展「植物×鳥×ケモノなぜ集める？ どう守る？」	5月1日～7月7日（63日）	4,140人
関連イベント①「ギャラリートーク」	5月3日	22人
関連イベント②体験講座 発見の部屋ミュージアム・ラボ「生物標本をみてみよう」	6月22日	189人
関連イベント③屋内講座 生きものガイド「意外と知らない？図鑑のミカタ」	7月7日	30人
「涼-牧野家ゆかりの扇コレクション-」(牧野家史料館)	7月9日～9月1日（54日）	875人
「救え！山古志の文化財～民具と古文書が語るもの～」(やまこし復興交流館おらたる)	7月11日～8月7日（28日）	1,155人
関連イベント「ギャラリートーク」	7月28日	15人
企画展「第12回長岡藩主牧野家の至宝展-11代藩主忠恭と戊辰・長岡藩兵の軌跡-」	7月27日～9月1日（36日）	3,704人
関連イベント①「ギャラリートーク」	7月27日	23人

関連イベント②「ギャラリートーク」	8月9日	14人
関連イベント③「バスでめぐろう! -長岡の戊辰戦争-	8月15日	6人
関連イベント④「ギャラリートーク」	8月24日	21人
企画展「考古学者小林達雄コレクション展」	10月5日～12月27日(84日)	6,129人
関連イベント①展示解説	10月19日	13人
関連イベント②「ギャラリートーク」小林コレクションの世界へようこそ!	11月30日	44人
関連イベント③展示解説	12月14日	13人
「長岡藩主牧野家ゆかりのお正月展」(牧野家史料館)	12月24日～1月19日(18日)	151人
「牧野家ゆかりのミニおひなさま展」(牧野家史料館)	2月10日～3月9日(26日)	904人
関連イベント「ギャラリートーク」	3月1日	42人
企画展「長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展」	2月14日～3月9日(22日)	2,581人

#### 4 各研究室主催の普及活動

研究室	事業名	実施日	会場	参加者数
植 物	キノコを調べる会	10月19日	悠久山公園	57人
	キノコの展示会	10月20日	博物館交流室	182人
動 物	市民探鳥会	4月13日、5月11日、6月8日、 7月13日、8月10日、9月14日、 10月12日、11月9日	うまみち森林公園	242人 (各回36、34、26、 28、26、18、36、38)
	冬鳥さよなら探鳥会	3月16日	信濃川河川敷	32人
文 化 財	古代のお金づくりに挑戦!	7月22日	道の駅良寛の里わしま 和らぎ家	6人
	長岡市郷土民俗芸能公演会	11月4日	アオーレ長岡	80人
受 付 ス タ フ	かはく夏のミニクラフト	7月24日、8月14日	市民ホール	77人
	かはくミニクラフト	4月10日、5月8日、6月12日、 7月10日、9月11日、10月9日、 11月13日、12月11日、1月8日、 2月12日、3月12日	市民ホール	281人 (各回26、23、11、 15、24、13、40、44、 27、8、50)

#### 5 熱中!感動!夢づくり教育事業 (講師敬称略)

- (1) 博物館の先生がやってきた (詳細は5ページ)  
実施件数延べ33件、参加者数延べ1,163人
- (2) バスで行く科博見学・体験学習 (詳細は5ページ)  
実施件数11件、参加者数延べ300人
- (3) 発見の部屋—ミュージアム・ラボ— (詳細は5ページ)  
実施回数1回、参加者数189人
- (4) 縄文体験教室 (詳細は6ページ)  
実施回数3回、参加者数延べ51人
- (5) 縄文出前授業・体験学習 (詳細は6ページ)  
実施件数33件、参加者数延べ865人
- (6) 親子わくわく魚ランド (詳細は7ページ)  
実施件数9件、参加者数延べ77人

#### (7) 移動水族博物館 (詳細は7ページ)

実施件数2件、参加者数延べ66人

#### 6 児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」 「自然科学写真展」 (詳細は8ページ)

会 期：11月6日～11月10日(5日間)

会 場：さいわいプラザ6階 大会議室

出 品：49件

入場者数：351人

#### 7 ネイチャーセミナー (詳細は9ページ)

実施回数：8回、参加者数延べ974人

**8 長岡れきしまち歩き** (詳細は10ページ)

実施回数：3回、参加者数延べ53人

**9 長岡市内の小・中学校等への総合学習支援**

- ・南中学校2年生、総合学習「『三傑』～河井継之助・小林虎三郎・三島億二郎～を比べてみよう!」、10月31日、田中総括副主幹
- ・新町小学校6年生、総合学習「『三傑』～河井継之助・小林虎三郎・三島億二郎～を比べてみよう!」、11月25日、田中総括副主幹
- ・宮内中学校1学年、「地域巡検一長岡の植物について」、10月18日、櫻井主査
- ・東中学校1年生、総合学習「長岡を知ろう!伝えよう!魅力再発見!」、7月17日、星野主任、武藤学芸員
- ・新町小学校6年生、総合学習「戊辰戦争史跡めぐり」5月29日、武藤学芸員
- ・阪之上小学校4年生、総合学習「小林虎三郎と国漢学校の教育」、7月12日、9月26日、武藤学芸員
- ・阪之上小学校4・5年生、総合学習「三島億二郎と長岡の復興」、11月5日、武藤学芸員

**10 中学生の職場体験受け入れ**

受け入れ件数20件、受け入れ生徒数延べ42人

科学博物館 : 6件15人  
 悠久山小動物園 : 8件17人  
 寺泊水族博物館 : 4件7人  
 馬高縄文館 : 2件3人

**11 博物館実習の受け入れ**

期間：8月5日～11日(7日間)

会場：科学博物館会議室等

実習生の所属：長岡造形大学1人、新潟大学1人

**12 依頼による普及活動** (市内の学校からの依頼を除く)

- ・新潟県立歴史博物館 日本ミュージアム・マネージメント学生第29回大会シンポジウム パネリスト、6月1日、小熊総括副主幹
- ・さわやか悠久大学「縄文文化の魅力その2-衣食住の視点から遺跡と遺物をみる-」講師、6月10日、小熊総括副主幹
- ・歴史文書館 古文書解説講座「古文書のいろは」第1回「古文書のいろは～くずし字を読む～」講師、5月29日、田中総括副主幹
- ・長岡社会科サークル夏の学習会「江戸時代の長岡と柿川」講師、7月27日、田中総括副主幹
- ・長岡市教育センター研修講座「長岡に語り継がれる幕末維新の三傑」講師、7月29日、田中総括副主幹
- ・千手コミュニティセンター講演会「震災の記憶と記録に学ぶ避難所運営～中越地震20年のアーカイブから～」講師、10月3日、田中総括副主幹

- ・歴史文書館 長岡市史双書を読む会 第2回「新型コロナウイルス感染症と史料保存-長岡市歴史文書館の試み-」講師、10月4日、田中総括副主幹
- ・すみよし若葉会研修会「避難所運営のアーカイブ～災害と復興を語り継ぐために～」講師、10月8日、田中総括副主幹
- ・表町コミュニティセンター歴史探検健康ウォーク「金峯神社周辺の歴史探検」講師、11月1日、田中総括副主幹
- ・神戸大学附属図書館 第14回 被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会「新潟県中越地震20年と長岡市の震災資料～災害復興と史料保存に関する諸課題～」講師、12月6日、田中総括副主幹
- ・長岡市三島郡小・中・総合支援学校長会連絡協議会研修会「長岡の近代化と信濃川・花火・東山油田」講師、1月20日、田中総括副主幹
- ・やまこし復興交流館おらたる カルチャー教室 古文書解説講座「古文書がつなぐ山古志のくらし」第7回「村の歴史を読む」講師、1月25日、田中総括副主幹
- ・三島億二郎顕彰会講話「三島億二郎の手紙」講師、3月23日、栄涼寺、田中総括副主幹
- ・中之島公民館高齢者講座「里山歩き」講師、5月29日、6月26日、櫻井主査
- ・長岡市教育センター研修講座「野外体験 尾瀬沼の自然」講師、7月31日、櫻井主査
- ・国営越後丘陵公園 里山守人養成セミナー 2024「秋の植物との出会いを楽しみ その魅力を伝えよう」講師、8月31日、櫻井主査
- ・こしじ水と緑の会里山自然講座「秋の草花」講師、9月1日、櫻井主査
- ・長岡きのこ同好会植物研修会講師、9月8日、櫻井主査
- ・見附市北谷公民館・耳取遺跡FANCULB事業「国史跡耳取遺跡講座・耳取山の植物、鳥を調べてみよう」講師、10月5日、櫻井主査、鳥居主任
- ・新潟県愛鳥モデル校事業講師、4月20日、5月8日、15日、11月13日、12月10日、鳥居主任
- ・国営越後丘陵公園里山フィールドミュージアム春のバードウォッチング講師、5月3日、鳥居主任
- ・見附市わくわく体験塾「博物館で鳥のフシギをさぐる! 集まれキッズ学芸員」講師、8月10日、鳥居主任
- ・学校法人 日本自然環境専門学校授業「地域博物館の役割と収蔵庫見学」講師、12月5日、鳥居主任
- ・長岡野鳥の会学習会「剥製標本で鳥の体を見てみよう」講師、12月10日、鳥居主任
- ・国際自然環境アウトドア専門学校講義「博物館収蔵標本から見る地域の生物相の記録とその活用方法」講師、令和7年1月16日、鳥居主任、櫻井主査
- ・長岡造形大学教養科目「長岡学」講師、4月16日、星野主任
- ・長岡市立石坂保育園・長岡市立石坂小学校自然観察会

- 講師、6月20日、星野主任
- ・長岡地域理科教育センター「昆虫採集・標本づくり体験教室」講師、6月29日、7月15日、7月27日、星野主任
- ・歴史文書館 古文書解説講座「古文書に見る長岡のすがた」第3回「足軽の心得～長岡藩足軽林家の家譜より」講師、10月9日、武藤学芸員
- ・深オコミュニティセンター文化講演会「長岡藩主牧野家の歴史といまに続く長岡藩の精神」講師、10月19日、武藤学芸員
- ・栃尾地域図書館「まち歩き 栃尾散策」講師、10月26日、武藤学芸員

### 13 審議会、協議会等への出席 (市区町村の記載がないものは長岡市内で実施)

- ・新潟県博物館協議会総会、新潟市、5月26日、金垣館長
- ・縄文サミット (信濃川火焰街道連携協議会)、新潟市、6月3日、金垣館長、小熊総括副主幹、小林主査
- ・北信越博物館協議会・日本博物館協会北信越支部総会・研究協議会、上越市ほか、6月4日～5日、金垣館長
- ・令和6年度全史協北信越地区協議会・研修会、福井県坂井市、7月11日～12日、山賀主査
- ・牧野公奉賛会定期総会、7月27日、金垣館長
- ・第1回新潟県文化財保護審議会委員、新潟市、8月8日、小熊総括副主幹
- ・長岡藩土殉節弔霊祭、福島県会津若松市、9月9日、金垣館長
- ・国史跡耳取遺跡の環境学習への活用に関する協議、見附市、10月1日、櫻井主査、鳥居主任
- ・長岡市文化議員連盟研修会、12月16日、金垣館長・山賀主査
- ・第2回新潟県文化財保護審議会委員、新潟市、7年2月6日、小熊総括副主幹

### 14 調査研究、資料収集活動 (市区町村の記載がないものは長岡市内で実施)

- ・新潟県文化財保護審議会に係る資料確認、上越市、7月5日、小熊総括副主幹
- ・新潟県文化財保護審議会に係る資料確認、柏崎市、7月8日、小熊総括副主幹
- ・トチバニンジンの種子散布者に関する調査、小千谷市ほか、6月～8月、櫻井主査、鳥居主任
- ・トチバニンジンの分布に関する調査、柏崎市ほか、6月～10月、櫻井主査、鳥居主任
- ・菌従属栄養植物調査、上越市ほか、6月～10月、櫻井主査、鳥居主任
- ・生物標本の収蔵管理に関する実態視察、新発田市ほか、4月17日、鳥居主任、櫻井主査
- ・アカネズミ属によるトチバニンジンの種子捕食調査、小千谷市ほか、5月～8月、鳥居主任、櫻井主査

- ・林床植物種子の動物散布調査に関する打合せ、十日町市、8月26日、鳥居主任、櫻井主査
- ・第2回「フィールドの植物学」研究発表会、新潟市、11月10日、鳥居主任、櫻井主査
- ・バードリサーチ鳥類学大会2024(オンライン)、12月21日～22日、鳥居主任
- ・越佐歴史資料調査会 (長岡藩預り地に関する調査)、上越市、8月17日～18日、2月15日～16日、武藤学芸員

### 15 委員会等の委嘱業務

- ・新潟県環境審議会 (自然環境部会・水環境部会) 委員、任期：令和5年6月1日～令和7年5月31日、櫻井主査
- ・新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里運営検討会委員、令和6年7月31日解嘱、鳥居主任
- ・国土交通省北陸地方整備局河川環境保全モニター、任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日、星野主任
- ・新潟県野生生物保護対策検討会 (昆虫分科会) 委員、星野主任
- ・新潟県祭り・行事等総合調査調査員、任期：令和6年6月10日～令和7年3月31日、加藤学芸員

### 16 館外施設への展示協力

- ・企画展「縄文土器入門～縄文土器の特色をさぐる」、会場：馬高縄文館、会期：4月13日～8月25日、入場者数：4,554人、小熊総括副主幹、小林主査
- ・博物館×図書館コラボ展示「生きもの×標本×図鑑」、会場：長岡市立中央図書館、会期：5月1日～7月7日 (5月15日～6月7日は図書館工事のため休館)、鳥居主任、櫻井主査
- ・良寛の里美術館特別展「描かれた良寛さま展 - 絵画と絵本のなかの良寛像 -」会期：7月13日～9月16日、入場者数：364人、金垣館長、丸山主査
- ・特別コーナー展示「昆虫標本展示」、会場：中之島地域図書館、会期：8月1日～30日、星野主任
- ・特別展「馬高式土器から栃倉式土器へ」、会場：馬高縄文館、会期：9月21日～11月4日、入場者数：1,422人、小熊総括副主幹、新田主査、小林主査
- ・「長岡の絵本作家 松岡達英展」、会場：長岡市栃尾美術館、会期：9月21日～11月24日、星野主任
- ・企画展「縄文石器入門～縄文石器の特色をさぐる」、会場：馬高縄文館、会期：11月23日～3月9日、入場者数：721人、小熊館長、小林主査

### 17 出版物

- (1) 長岡市立科学博物館報 (NKH) 109号 300部
- (2) 長岡市立科学博物館研究報告 第60号 300部
  - ・高橋啓太 新潟県長岡市小国地域の魚沼層に含まれるチャート礫より産出した三疊紀放射虫化石
  - ・星野光之介・山屋茂人 当間山・魚沼スカイライ

ンの冷温帯二次林の甲虫相

- ・丸山一昭 下ノ西遺跡出土の新資料 ―煮炊具と土製品―
- ・山賀和也 長岡市間野窯跡出土須恵器の検討
- ・新田康則 彗星見ル ―三島郡塚野山村庄屋・長谷川久静による江戸時代後期の彗星記録―
- ・加藤穂乃佳 長岡市栢尾新町の長部菓子店をめぐる調査 (2) 粉菓子とその製法について
- ・加藤由美子 考古学者・小林達雄インタビュー 企画展「考古学者・小林達雄コレクション展」に寄せて
- ・武藤真由 近世寺泊における船問屋・升屋久助と小宿・小熊屋伝八の争論

- (3) 長岡市内遺跡発掘調査報告書 200部  
 (4) 長岡城跡発掘調査報告書 200部

## 18 外部刊行物・論文誌等への執筆

- ・『「北越偉人沙門良寛全傳」の著作者・西郡久吾』、長岡郷土史、第61号、pp.189-196、長岡郷土史研究会、金垣館長
- ・「展覧会へようこそ 特別展『描かれた良寛さま展―絵画と絵本のなかの良寛像―』新潟日報、2024年8月14日、新潟日报社、金垣館長
- ・随想「震災と戦災の記憶をつなぐ」、会報『地域づくり in ほくりく』2024年夏号、pp.4-5、(一社)北陸地域づくり協会、田中総括副主幹
- ・コラム「山本寺上杉氏の動向」、黒田基樹・前嶋敏編『上杉謙信とその一族』pp.323-326、戎光祥出版、田中総括副主幹
- ・「長岡の碩学(23)三島億二郎」、長岡あーかいぶ、第23号、p.3、長岡市歴史文書館、田中総括副主幹
- ・「トチバニンジン *Panax japonicus* (ウコギ科 Araliaceae) の果実を持ち去る鳥類と哺乳類の初確認」、地域自然史と保全46(1)、pp.61-68、KONC、櫻井主査、鳥居主任
- ・「展覧会へようこそ 企画展『植物×鳥×ケモノ―なぜ集める? どう守る?―』」、新潟日報、2024年6月4日、新潟日报社、鳥居主任
- ・「日本の林床植生を支えている? ―ヒヨドリは緑の下の力持ち―」、野鳥新潟第207号、pp.2-3、新潟県野鳥愛護会、鳥居主任
- ・「柏崎市でヤマナラシから採集された甲虫3種の記録」越佐昆虫同好会報、第131号、p.59、越佐昆虫同好会、星野主任
- ・「2024年に長岡市で採集した甲虫4種の記録」越佐昆虫同好会報、第131号、p.60、越佐昆虫同好会、星野主任
- ・「ライトトラップで得られたコブスジコガネ2種の記録」越佐昆虫同好会報、第131号、p.62、越佐昆虫同好会、星野主任

- ・「新潟地震60年・新潟県中越地震20年公開シンポジウム「そなえる・すくう・たちあがる」参加記」、新潟史学88号、pp.59-63、新潟史学会、武藤学芸員・加藤学芸員
- ・埋文コラム「地元で守る文化財!長岡市『順動丸シャフト』保存処理の試み」、『埋文にいがた』第126号、p.6、新潟県埋蔵文化財センター、加藤主査

## 19 資料の受贈 (敬称略)

### 考古資料

- ・藤橋遺跡など表採資料 337点  
長岡市 遠藤 幸男

### 歴史資料

- ・長岡市大森家資料 18,302点  
加茂市 皆川 悦子
- ・三島郡深才村遠藤家文書 59点  
長岡市 遠藤 幸男
- ・小国山横沢村検地帳ほか 12点  
北海道札幌市 飯田 俊二
- ・引札「野本旅館」ほか 7点  
神奈川県相模原市 深見 寶夫
- ・菓子型 10点  
長岡市 溝口 政子
- ・曾我家伝来甲冑片袖ほか 2点  
神奈川県茅ヶ崎市 古谷 正昭

### 民俗資料

- ・産着 2点  
長岡市 田中 春子
- ・長部菓子店製菓道具ほか 一式  
長岡市 長部 直榮
- ・婚礼フィルムほか 一式  
長岡市 小原 加奈

### 文化財資料

- ・一之貝百二十・十の字拵 1点  
長岡市 外山 成子

## 20 日本遺産「『なんだ、コレは!』信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」の取組み

- ・日本遺産共通チラシの編集、文化遺産カード配布、展示パネルの追加設置など、学芸WG業務の実施
- ・長岡まつり観光ふれあい広場へのWS「日本遺産・火焰土器」出店、アオーレ長岡、8月7日
- ・観光ボランティアガイド向け日本遺産関連講座、馬高縄文館、8月28日
- ・「日本遺産・火焰土器」PRコーナーの設置、中央図書館、11月26日～1月5日
- ・縄文楽検定の開催、馬高縄文館、3月2日
- ・縄文カムバックサーモン事業の実施、柿小学校、3月17日

**21 市指定文化財「順動丸シャフト」保存活用事業**

・順動丸シャフト保存処理完了記念講演会「地元で守る！わが国最大級の鉄製文化財」、講師：伊藤幸司（東北芸術工科大学教授）寺泊文化センター、11月9日、33人

**22 開発に伴う埋蔵文化財調査**

・大河津分水路河川敷、試掘調査（大河津分水路低水路掘削）、5月8日～10日・11月20日～26日、加藤主査  
 ・長岡城跡、本調査（ホテル建設）、8月22日～11月29日、丸山主査  
 ・転堂遺跡、確認調査（宅地造成）、9月3日、山賀主査  
 ・ササラ西遺跡隣接地地区、試掘調査（浄水場改修）、9月17日、新田主査  
 ・黒条地区、試掘調査（県営ほ場整備）、10月16日～23日、丸山主査

**23 委員会・審議会の開催****(1) 長岡市馬高・三十稲場遺跡整備活用委員会**

委員（敬称略）

・学識経験者

安藤 孝一 小野 昭 小林 達雄  
 宇賀田和雄

・市民代表

鷺津 和義 星野 紀子 渡辺 千雅

・オブザーバー

新潟県教育庁文化行政課

委員会の開催

第33回 7年2月12日 書面による評決

**(2) 長岡市文化財保護審議会**

委員（敬称略）

加賀谷真梨 田中 和代 鳴海 忠夫  
 西田 泰民 長谷川一夫 羽鳥 仁一  
 平山 育男 深澤三枝子 星野 紀子  
 三富 良晴

委員会の開催

第1回 8月24日 教育委員会会議室

第2回 7年3月11日 書面開催

**(3) 長岡市文化財保存活用地域計画策定協議会**

委員（敬称略）

飯島 康夫 坂井 秀弥 田中 聡  
 平山 育男 新野 義弘 松井 富栄  
 鷺津 和義\* 宮下 敦\*\* 佐藤 敏明  
 小林 雅典 茂野由美子 五十嵐智行  
 関 和仁 野澤 由香 平澤 裕介  
 桜井 秀行

\*：～12月、\*\*：7年1月～

委員会の開催

第2回 7月25日 さいわいプラザ501会議室

第3回 8月24日 さいわいプラザ501会議室

第4回 7年3月26日 さいわいプラザ大会議室

**24 所管した共催・後援事業****(1) 親子で遊べる昆虫観察ウォーク／親子で遊べる昆虫観察ウォーク中級編**

主催：昆虫はかせネットワーク

会期：4月～11月

場所：馬高縄文館、藤橋歴史の広場ほか

**(2) Summer Vacation Special Event**

KUWAGATA EXHIBITION クワガタ展

主催：道院高原交流イベント実行委員会

会期：7月20日～8月18日

場所：長岡市道院高原オートキャンプ場

**(3) 昆虫はかせネットワーク特別講演会「新潟発！昆虫少年から研究者に ―研究者が語る昆虫標本の魅力と未来―」**

主催：昆虫はかせネットワーク

会期：9月22日

場所：長岡市立中央図書館

**(4) 第19回長岡民話百物語**

主催：長岡民話の会

会期：10月2日～3日

場所：アオーレ長岡

**(5) 中越地区伝統・伝承芸能祭「蒼柴祭 第奈々之巻」**

主催：伝統文化支援団体 蒼柴の杜

会期：10月27日

場所：長岡リリックホール

**(6) 語りの杜に風が吹くⅡ**

主催：越後ながおか語り座ネット

会期：11月17日

場所：アオーレ長岡

**(7) 第18回越後長岡ひなものがたり**

主催：越後長岡ひなものがたり実行委員会

会期：2月14日～3月4日

場所：長岡市大手通周辺及び市内各所

**25 名誉館長 特別授業・講演等**（市区町村の記載がないものは長岡市内で実施）

・公開講座「お殿様の履歴書」、6月22日、長岡大学

**26 長岡市立科学博物館 OFFICIAL FACEBOOK**

更新回数：101回

掲載記事：植物研究室36件、動物研究室34件、  
 歴史研究室6件、民俗研究室2件、  
 文化財研究室17件、全体共通6件

**27 職員名簿**

名誉館長 牧野 忠昌

館長 金垣 孝二

令和6年4月1日転入

館長補佐 神保亜由美

総括副主幹 小熊 博史（考古研究室）

総括副主幹 田中 洋史 (歴史研究室)  
(学芸係長事務取扱)  
令和6年4月1日転入

主 査 櫻井 幸枝 (植物研究室)

主 任 鳥居 憲親 (動物研究室)

主 任 星野光之介 (昆虫研究室)

学 芸 員 武藤 真由 (歴史研究室)

学 芸 員 加藤穂乃佳 (民俗研究室)

学 芸 員 高橋 啓太 (地学研究室)

令和6年4月1日付採用

会計年度任用職員 上村 利明

令和6年4月1日転入

文化財係長 鳥居 美栄 (文化財研究室)

主 査 新田 康則 (文化財研究室)

主 査 小林 徳 (文化財研究室)

主 査 丸山 一昭 (文化財研究室)

主 査 加藤由美子 (文化財研究室)

主 査 山賀 和也 (文化財研究室)

主 任 吉田 聖良

令和6年4月1日転入

主 事 村山 葵衣

令和6年4月1日付採用

会計年度任用職員 中山佐和子

会計年度任用職員 八子 幸栄

会計年度任用職員 茨木美代子

会計年度任用職員 鎌田美穂子

会計年度任用職員 田中 智子

会計年度任用職員 五十嵐かおる

総括副主幹 広井 造 (歴史研究室)

令和6年3月31日転出

主 査 永沢 早苗

令和6年3月31日転出

学 芸 員 田中 靖 (文化財研究室)

令和6年11月30日付退職

N K H (長岡市立科学博物館報) No.109

令和7年3月31日発行

編集・発行 長岡市立科学博物館

〒940-0084 長岡市幸町2丁目1番1号

印刷 株式会社 中央印刷

〒940-0041 長岡市学校町1-9-21